

Musica poetica 2026 <受難楽の夕べ> イエスの生涯†

Leitung◆淡野太郎◆指揮

Ensemble Sagittarius◆アンサンブル・サギタリウス

Sopran◆今村ゆかり◆笠恵里花 Alt◆柴田圭子◆依田卓

Tenor◆及川豊◆淡野太郎 Bass◆小藤洋平◆青木海斗◆浦野智行

Heinrich Schütz Chor, tokyo◆ハインリヒ・シュッツ合唱団 東京

SI◆今村ゆかり・内田純子・川田純子・玉井千恵・笠恵里花

SII◆小谷野淳子・柴田圭子・水井治子・大和美信

A◆稲垣麻美・中村光子・畑中久美子・三觜美和・依田卓

T◆及川豊・淡野太郎・平岡一幸・武藤和明

B◆青木海斗・浦野智行・小藤洋平・中村誠一・山村道男

HEINRICH+SCHÜTZ

モテットと 《イエスの生涯》 受難曲で迎える

†預言～受胎～誕生～伝道～最後の晩餐～受難†

PASSIONSMUSIKABEND

I:1.王笏はユダから Es wird das Zepter von Juda SWV369 創世記49:10-11a

I:2.彼はその衣を葡萄酒で洗い Er wird sein Kleid in Wein waschen SWV370 創世記49:11b-12

2.慰めよ、我が民を慰めよ Tröstet, tröstet mein Volk SWV382 イザヤ40:1-5

3.独りの嬰兒が我々に Ein Kind ist uns geboren SWV384 イザヤ9:5-6

4.ドイツ語マニフィカト Das deutsche Magnificat SWV426 ルカ1:46-55

5.言葉は肉となり Das Wort ward Fleisch SWV385 ヨハネ1:14

6.私は荒れ野に呼ばれるものの声 Ich bin eine rufende Stimme SWV383 ヨハネ1:23, 26-7

7.神はそれほどにこの世を愛された Also hat Gott die Welt geliebt SWV380 ヨハネ3:16

8.神の救いの御恵みが現れた Es ist erschienen die heilsame Gnade Gottes SWV371 テトス2:11-14

9.私はまことの葡萄の木 Ich bin ein rechter Weinstock SWV389 ヨハネ15:1-5

10.我らの主イエス・キリストは裏切られし夜 SWV495 コリントII11:23-25

Unser Herr Jesus Christus in der Nacht da er verraten ward

[第2次]†シュッツ全作品連続演奏†[第3回] *Musica poetica 2026*

Leitung◆淡野弓子◆指揮

Evangelist◆及川豊◆福音史家

Jesus◆浦野智行◆イエス

Pilatus◆淡野太郎◆ピラト

Der Knecht[1]◆青木海斗◆従者[1]

Der Knecht[2]◆小藤洋平◆従者[2]

Petrus◆中村誠一◆ペトロ

Die Magd◆笠恵里花◆婢女

Heinrich Schütz Chor, Tokyo◆ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京

Historia des Leidens und Sterbens unsers Herrn und Heilandes

Jesu Christi nach dem Evangelisten St. Johannes

HEINRICH+SCHÜTZ

《ヨハネ受難曲》

JOHANNES+PASSION

+福音史家聖ヨハネによる+

+我らの主、救い主イエス・キリストの受難と死の物語+

SWV 481

3|24 [Tue] 19:00開演 [18:30 開場] 三鷹市芸術文化センター

「風のホール」

¥4000

¥2500[学]

◆JR 中央線三鷹駅南口から徒歩 14 分。三鷹駅南口2番バス乗り場から3つ目「八幡前」下車

主催◆ムシカ・ポエティカ www.musicapoetica.jp マネジメント・チケット◆菊田音楽事務所 T&F.042-394-0543

ご挨拶

早いもので、昨年3月に始まった第2次「シュッツ全作品連続演奏」も第3回目を迎えることとなりました。受難曲第1声は《ルカ受難曲》(1653)でした。今年はシュッツの作曲順に従って《ヨハネ受難曲》(1665-66)を取り上げます。来年は《マタイ受難曲》(1666)を演奏する予定です。

《ルカ》や《マタイ》と比べて福音書の受難の記事がコンパクトなため、シュッツの遺した3つの受難曲の内、《ヨハネ》は演奏時間も若干短めです。そこで今回はコンサートの前半は『イエスの生涯』と題し、シュッツの主に後期の作品を多く取り上げ、旧約聖書の預言から始まってイエスのこの世における誕生と伝道、そして十字架に至る長い道のりを順に辿って行くプログラムを組みました。

今回は《ヨハネ受難曲》も含め全てア・カペラでの演奏となります。人間の声のみで織りなすシュッツの音楽を通じ、共にキリストの受難に思いを馳せる時としていただければ幸甚に存じます。

曲目のことなど

ご挨拶でも申し上げました通り、今回の物語は旧約聖書の預言、それもイエス・キリストの降誕から遡ること1500年以上も前、創世記に記された族長ヤコブの遺言 **1:1. Es wird das Zepter von Juda** 王笏はユダから／**1:2. Er wird sein Kleid in Wein waschen** 彼はその衣を葡萄酒で洗い から始まります。時代は飛んで紀元前7～8世紀頃、イザヤによる救い主の到来を歌う **2. Tröstet, tröstet mein Volk** 慰めよ、我が民を慰めよ／**3. Ein Kind ist uns geboren** 独りの嬰兒が我々に と続き、いよいよイエス・キリストの時代へと移ります。聖霊によってキリストを受胎した処女マリアの口から、これまた聖霊に満たされて溢れ出た讃歌 **4. Das deutsche Magnificat** ドイツ語 マニフィカト を経てキリストの降誕と顕現を端的に告げる **5. Das Wort ward Fleisch** 言葉は肉となり 、さらに救い主に先立って神の道を宣べ伝えた洗礼者ヨハネの言葉 **6. Ich bin eine rufende Stimme** 私は荒れ野に呼ばれるものの声 によってキリストの伝道が始まります。そして「この一節のみで聖書全体を要約している」と評されるヨハネによる福音書第3章16節 **7. Also hat Gott die Welt geliebt** 神はそれほどにこの世を愛された を中心に据えてひと区切り。時代は一旦飛び、救い主が遣わされたことの意義を後世の使徒の立場から再確認する **8. Es ist erschienen die heilsame Gnade Gottes** 神の救いの御恵みが現れた を挟んだ後、**9. Ich bin ein rechter Weinstock** 私はまことの葡萄の木 をもって話は受難前夜に戻り、**10. Unser Herr Jesus Christus in der Nacht da er verraten ward** 我らの主イエス・キリストは裏切られし夜 によって主が定められた聖餐、すなわち今日まで続く信仰の継承を改めて確認することで第1部の締めくくりとし、その後の受難はもちろん第2部の **Johannes-Passion** ヨハネ受難曲 で語られることとなります。

今回の曲目は **1-3** と **5-9** が《宗教合唱曲集》(1648)、**4** が《12の宗教歌》(1657) の、そして《ヨハネ受難曲》(1665-66) とほぼ全てがシュッツ後期、老年期の作品に属します。また **10** のみは年代未詳ではあるものの、シュッツの師匠 G. ガブリエリ直伝の複合唱様式で書かれており、いわばシュッツの作曲技法の原点とも申せましょう。30年戦争(1618-1648)という世界史上類を見ないほど凄惨な時代を耐え抜き、しかしそれによって円熟味と奥行きを大いに増したシュッツの筆致を通して、旧約聖書の古代から現代にまで至る長大な歴史を皆さまと共に歩むことができれば望外の喜びです。ご参会をお待ち申し上げます。

2026年2月

ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京 常任指揮者 淡野太郎

Profile

淡野 太郎 Taro Tanno 指揮

東京都立芸術高校を経て東京藝術大学卒業。声楽を岡崎實俊、佐々木正利、嶺貞子、リコーダーを守安功、濱田芳通、ファゴットを山上貴司、アンサンブルを野村満男の諸氏に師事。藝大在学中にはバッハ・カンタータクラブに所属し、小林道夫氏の薫陶を受ける。1997年に渡欧、2002年に再渡欧し声楽をA.ギーベル、C.モラーヌ、Z.ファンダステネ、H.ポルスター、リコーダーをE.シュヴァンダ、合唱指揮をH.ハーケの諸氏に師事。ヘルフォルト教会音楽大学に学び、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス室内合唱団メンバーとして活動。2007年帰国の前後より指揮活動を本格化させ、宗教曲を中心に数多くの作品を指揮、好評を博す。ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京 常任指揮者。ユビキタス・バッハ、メンデルスゾーン・コア各指揮者。ドイツ歌曲研究会「ノイエ・クレンゲ」代表。「ムシカ・ポエティカ」スタッフ・プレーヤー。

及川 豊 Yutaka Oikawa テノール

盛岡市出身。岩手大学教育学部及び東京藝術大学音楽学部声楽科を卒業。宗教曲を得意とするテノール歌手であり、バッハやシュッツ、ラッソ、ヘルツォーゲンベルク、ディストラーと時代にこだわらない福音史家の歌唱が評価されている。またグレゴリオ聖歌・ルネサンス音楽も含めた少数でのアンサンブル歌手としても活躍。2016年から「シューマンに恋して」と題するリサイタルを定期的に行なっている。声楽を佐々木正利、鈴木寛一の各氏に師事。「ベアータ・ムジカ・トキエンシス」メンバー。聖グレゴリオの家宗教音楽研究所講師。

浦野 智行 Chiyuki Urano バリトン

東京藝術大学別科ホルン専修後、声楽に転向。同大学院声楽科オペラ専攻修了。日本音楽コンクール、奏楽堂日本歌曲コンクール等数多くの入賞歴を持つ。透明かつ柔らかい声と透徹したテキスト解釈で安定した歌唱をみせている。オペラ、オラトリオの分野で活躍する一方、歌曲にも力を注ぎ特にロシア歌曲の解釈では高い評価を得ている。バッハ・コレギウム・ジャパンのメンバーとしてバッハ教会カンタータ全曲プロジェクトに参加。BIS Recordsではシュッツ《十字架上の七言》、バッハ《ヨハネ受難曲》のイエス、《マタイ受難曲》のアリア等のソリストとして活躍。「ムシカ・ポエティカ」スタッフ・プレーヤー。

青木 海斗 Kaito Aoki バリトン

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学大学院修士課程音楽研究科声楽(オペラ)専攻にて学ぶ。大学卒業時に同声会賞受賞、同声会新人演奏会に出演。第68回全日本学生音楽コンクール大学の部東京大会2位、全国大会入選。古楽・教会音楽分野を中心にソリストを務め、深く研究・研鑽を重ねている。これまで声楽を井上雅人、R.Honeysucker、伊原直子、野々下由香里、勝部太、A.Sommerfeldの各氏に師事。

小藤 洋平 Yohei Koto バリトン

国立音楽大学声楽科卒業。尚美ディプロマコース及びハンプルク音楽院修了。鈴木惇弘、竹内則雄、K.ショホの各氏に師事。第12回友愛ドイツ歌曲コンクール入選。バッハやヘンデル等の作品においてソリストを多く務める他、コーロ・リベロ・クラシコ、サリクス・カンマーコア、HFJキャノンズ・コンサート室内合唱団といった団体のメンバーとして、様々な演奏会に出演している。

ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京 Heinrich-Schütz-Chor Tokyo

1968年4月東京に発足。以来シュッツ作品の研究・演奏を中心課題とし古今の宗教曲、世俗曲の公演を続け日本を代表する合唱団の一つとして内外の信頼を寄せられている。1989年淡野弓子指揮のもとシュッツ全作品連続演奏を開始し、2001年およそ500曲の演奏を達成。2008年 創立40周年を機に淡野太郎が常任指揮者に就任。自主公演に加え日本キリスト教団本郷教会主催による讃美と祈りの夕べ＜Soli Deo Gloria＞へはメンデルスゾーン・コア有志とともに毎回参加し教会暦によるバッハ・カンタータの演奏を続行中。2025年4月第2次「シュッツ全作品連続演奏」を開始。

淡野 弓子 Yumiko Tanno 指揮

東京藝術大学を経てドイツ・ヘルフォルト教会音楽大学においてW.エーマン教授より合唱指揮法、バロック音楽の演奏理念を学ぶ。1968年ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京を設立し2008年まで常任指揮者。1989-2001年にかけて＜シュッツ全作品連続演奏＞を行い、全496曲を終了。声楽をA.ギーベル、E.マンヨンに学び、両氏の教えの根幹である倍音唱法の研究・実践を重ねる。2018年2月より朝日カルチャーセンター立川、及び横浜教室において宗教音楽のレクチャー、歌唱実践の講師として出講中。活水学院キリスト教文化研究所研究員。日本声楽発声学会相談役。ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京 主宰。「ムシカ・ポエティカ」代表。



2026/7/3(金)19:00 府中の森芸術劇場「ウィーンホール」

Musica poetica 2026 特別公演

＜メンデルスゾーン・コア創立20周年記念＞

Felix Mendelssohn-Bartholdy 《最初のヴァルプルギスの夜》《交響曲第2番『讃歌』

合唱：メンデルスゾーン・コア&シュッツ合唱団・東京

器楽：ユビキタス・バッハ オルガン：椎名雄一郎

指揮 淡野太郎

